

出典：京都御所宮家及び公家屋敷割と知行高図
(同志社大学歴史資料館所蔵)

時を扇ぐ

あお

伝統文化×もの作りフォーラム



2026年
7/4 [土]
13:30-16:30

入場無料・事前申込制

同志社大学今出川キャンパス
良心館 207 教室

寛永三年（1626）、三代將軍徳川家光が後水尾天皇を二条城に迎えた「寛永行幸」は、京都の文化がひとときわ輝いた歴史的イベントでした。それから四百年。伝統文化の技と心が、現代の「もの作り」を通じて新たな価値を生み出す取り組みをご紹介します。国文学研究資料館が所蔵する伊藤若冲の団扇図や、有職料理・萬亀楼に伝わる『二条城行幸御献立絵図』を、富士フィルムビジネスイノベーションジャパンが京都を起点に展開している古文書の複製技術で精緻に再現。その美しい図柄を、寛永元年創業の歴史を誇る小丸屋住井の伝統の技で、団扇や扇子へと仕立て上げました。伝統文化をいかにして未来に引き継ぎ、発展させていくのか。日本文学の知の集積地である国文学研究資料館の知見を交え、文化・技術・学術が交差する新たな「もの作り」の可能性を探ります。

プログラム

- 13:00 — 開場
13:30 — 開会挨拶 福田 智子（同志社大学文化情報学部教授、同志社大学宮廷文化研究センター長）
13:35 — 講演
富士フィルム京都工場の「もの作り」
吉田 謙一（富士フィルムビジネスイノベーションジャパン（株）京都支社）
複製の底力
入口 敦志【録画講演】（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 副館長）
「二条城行幸御献立絵図」を読み解く
小西 雄大（有職料理 萬亀楼 11 代目若主人、生間流式庖丁 31 代目次期継承者）
小丸屋住井の400年
住井 啓子（小丸屋住井 代表取締役社長）
15:55 — ディスカッション
16:25 — 閉会挨拶

お申込み

- 下記QRコードからお申し込みください
- 定員 100 名



URL <https://x.gd/uZCnU>

【お問い合わせ】宮廷文化研究センター事務局 court-cs@mail.doshisha.ac.jp

合理的配慮が必要な方は、事前にご連絡ください。ご要望内容を検討の上、できる限り対応させていただきます。